

松代象山地下壕

10月7日 会派総会 資料-1
商工観光部 観光振興課

第二次世界大戦の末期、軍部が本土決戦最後の拠点として、極秘のうちに、大本営、政府各省等をこの地に移すという計画のもとに、昭和十九年十一月十一日午前十一時着工翌二十年八月十五日終戦の日まで、およそ九ヶ月の間に当時の金額で二億円の巨費と延べ三百万人の住民及び朝鮮人の人々が労働者として**強制的に**動員され、突貫工事をもつて構築したもので全工程の75%が完成した。

ここは地質学的にも堅い岩盤地帯であるばかりでなく、海岸線からも遠く、川中島合戦の古戦場として知られているとおり要害の地である。

松代地下大本営は舞鶴山（現気象庁精密地震観測室）を中心として皆神山、象山に碁盤の目の如く掘り抜き、その延長は10km余に及ぶ地下壕である。

松代象山地下壕の現況

総延長 五八五三・六 m

（うち一三八・七mを信州大学宇宙線地下観測室となっている）

概算掘削工量 五九 六三五³ m³

床面積 二三 四〇四² m²

長野市

秘

修正案

記者発表までの間は
非公開とします。

松代象山地下壕

松代大本営地下壕は、まいづるやま舞鶴山みなかみ（現気象庁松代地震観測所）を中心として、皆神山、象山に碁盤の目のように掘り抜かれ、その延長は約十キロメートル余りに及んでいます。

ここは地質学的にも堅い岩盤地帯であるばかりでなく、海岸線からも遠く、川中島合戦の古戦場として知られている要害の地です。

第二次世界大戦の末期、軍部が本土決戦の最後の拠点として、極秘のうちに、大本営、政府各省等をこの地に移すという計画のもとに、昭和十九年十一月十一日から翌二十年八月十五日の終戦の日まで、およそ九箇月の間に建設されたもので、突貫工事をもって、全工程の約八割が完成しました。

この建設には、当時の金額で一億円とも二億円ともいわれる巨費が投じられ、また、労働者として多くの朝鮮や日本の人々が強制的に動員されたと言われています。

なお、このことについては、当時の関係資料が残さ
れていないこともあり、必ずしも全てが強制的ではな
かったなど、さまざまな見解があります。

松代象山地下壕は、平和な世界を後世に語り継ぐ上
での貴重な戦争遺跡として、多くの方々にこの存在を
知っていただくため、平成元年から一部を公開してい
ます。

松代象山地下壕の現況

総延長 五、八五三・六メートル

（うち一三八・七メートルは信州大学宇宙線地下観測室となっている。）

概算掘削工量 五九、六三五立方メートル

床面積 二三、四〇四平方メートル